

(様式6-1)事後評価シート

事業名	街路			路河川名等	3・4・4号 旧国道線				
番号	7	市町村名	千曲市	箇所名(ふりがな)	屋代(やしる)				
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	旧国道線は、古くは北国街道であったことから沿道は矢代宿として栄え、現在では屋代商店街となっている。沿道周辺は、都市計画区域マスタープランにおいて、中心商業地域位置づけられており、にぎわいのある中心市街地として、都市基盤の充実や商業・業務施設の立地及び誘導や沿道の住環境の整備を図ることを目的としている。								
事業目的	旧国道線は旧更埴市の中心部に位置し、しなの鉄道屋代駅から県道屋代停車場線を經由して長野自動車道更埴インター及びあんずの里で知られる森地区へ至る重要な路線である。また、沿道には商店街や小学校、高等学校があり、朝夕の通勤・通学者も多いが、幅員が狭く歩道が未整備のため、大変危険な状況にあった。このため、拡幅改良と歩道設置を行い、市街地の交通安全の向上及び商店街の活性化に資するものである。								
事業概要	当初工期	H13～H19	費用対効果	1.7	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	最終工期	H13～H22	完了後経過年数	3	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源
	当初計画内容(主な工種)	拡幅改良工 L=440m			2,500,000	1,375,000	250,000	787,000	88,000
	最終事業実績(主な工種)	拡幅改良工 L=440m			1,720,537	946,295	172,054	541,000	61,188
事業期間の延長、短縮理由と分析	地権者との協議(代替地の確保)に不測の日数を要した。								
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	詳細な調査により補償物件数が減となった。 試掘の結果、当初想定より路盤が厚かったため既設路盤を利用しての舗装構成を見直し、工事費が減となった。								
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない)								評価
	直接的効果(定量的・定性的)	歩道と車道の分離により、歩行者・自転車の安全がはかられるとともに、円滑な車両交通の確保につながった。						B	
	間接的効果(定量的・定性的)	お祭り等の地区の行事の際は、改良された道路を使用し歩行者天国するなど、広いスペースを有効に使うことができた。							
②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)								評価
	沿道の住環境と自転車歩行者道の整備により、安全で安心なうつくしいまちづくりが推進された。植樹帯設置により、歩道の緑化が進み自然環境がよくなった。								A
③施設の維持管理状況	施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)								評価
	街路樹の維持管理について、地域の方とアダプトシステムの活用を検討中である。								B
④地域住民等の評価	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)								評価
	せまく危険な道路が拡幅され歩道が設置されたことで安全かつ快適に歩けるようになり、大いに評価する。拡幅の計画から大変長い年月が過ぎ、世代交代もあり商店街も厳しい状況で、環境が整備されたことで活気ある地域が取り戻せると思われる。								A
⑤事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況(A:貢献度が高い B:貢献している C:特になし)								評価
	広幅員の安全な歩道ができたため、散歩やジョギングをする人が見受けられる。健康的に暮らせる住環境の整備が行えた。								B
改善措置の必要性	特になし。								
今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	市街地の道路整備においては、可能な限り無電柱化を図り、景観や防災の向上を図る必要がある。								
部意見	小学生をはじめとする歩行者の安全が確保され、商業施設の立地が進むなど事業目的が概ね達成すると共に、地域の評価も高く、事業効果は高いと判断される。			行政改革課意見		安全性の向上が図られ、事業の目的を達成している。			

事業名	街路		路河川名等	旧国道線	
番号	7	市町村名	千曲市	箇所名(ふりがな)	屋代(やしろ)

【事業計画時の写真】



【事業完了後(現況)の写真】

